

平戸市都市計画マスタープラン 第 1 回策定委員会 意見対応

No	項目	意見内容	対応
1	アンケート	都市マスアンケートと総合計画アンケートの結果が異なる点は？	相違点はあまり無く、市民参加のまちづくりで参加したいテーマで以下の違いがあった。 総合計画アンケート “健康づくり 33.3%”、“高齢者福祉 31.5%”、“産業振興・観光振興 24.3%” 都市マスアンケート “高齢者が安心して暮らせるまちづく 33.7%”、“食や農産物、特産品のまちおこし 29.4%”、“清掃や美化活動 26.4%”
2	課題整理	現状と課題の整理	第 2 回委員会の議題として予定している。
3	現計画の評価	現計画はどれだけ進捗しているか	第 2 回委員会の議題として予定している。
4	資料等	P26 産業の事業所数について	集計の誤りがあったため、資料を訂正し配付する。
5		農業データを詳しく知りたい	資料を配布する。
6		U ターン者はどのような職業についているか	H18～22 年の U ターン者は 49 名（23 世帯）である。
7		P44 都市計画道路の廃止路線がわかりにくい	図を拡大修正し配付する。

平戸市都市計画マスタープラン 現計画の検証

1. 平成 11 年策定 平戸市都市計画マスタープランの構成

現在の「平戸市都市計画マスタープラン」は平成 11 年に策定されたものであり、合併後の新平戸市を対象として検証した結果、以下の視点による見直しが必要である。

見直しが必要なポイント

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 計画の目的・方法 | 対象区域:新平戸市都市計画区域 |
| 2. 市の現況と課題 | 最新の情報に更新
課題については後述 |
| 3. 都市づくりの基本方針 | |
| 3.1 都市づくりの理念 | 計画の継続性と上位計画との整合をはかる |
| 多核回遊の都市づくり | |
| 快適環境の基盤づくり | |
| 歴史文化のまちづくり | |
| 3.2 将来都市像 | 上位計画との整合をはかる |
| “港と歴史の公園都市” | |
| 3.3 都市整備の基本方針 | |
| 3.4 都市計画の目標 | |
| (1) 目標年次 | 平成 25 年から 20 年後の平成 44 年 |
| (2) 目標人口 | |
| (3) 市街地規模の設定 | |
| 4. 全体構想 | 田平地域の追加 |
| 4.1 都市構造 | |
| 4.2 土地利用の方針 | |
| 4.3 都市施設の方針 | |
| 4.4 都市環境に関する方針 | |
| (1) 基本的な考え方 | 景観、防災、環境等の方針を追加 |
| (2) 交通 | |
| (3) 公園・緑地 | |
| 5. 地域別構想 | 田平地域の追加 |
| 5.1 地域区分 | |
| 5.2 地域の現況と動向 | |
| 5.3 地域別の現況・特性と整備課題 | |

- 5.3.1 平戸北地域
- 5.3.2 平戸中央地域
- 5.3.3 平戸南地域
- 5.3.4 中野地域
- 5.3.5 津吉地域

6. 計画推進のための方策

まちづくりの推進体制の追加

2. 現計画の構想とその後の取り組み状況

現計画の構想		その後の取り組み状況
将来都市像 「港と歴史の公園都市」		
都市づくりの理念	多核回遊の都市づくり	
	都市及び生活施設の整備と合理化	平戸港交流広場、バスセンター建替整備（～H26年度）
	道路等ネットワークの整備充実	都市計画道路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 亀岡上町線の整備完了。 ・ 長期未着手路線の廃止。 ・ 亀岡循環線はH25年までに整備予定。 橋梁長寿命化修繕計画策定（H24.3予定）
	港湾機能の充実と地域分担化	臨港地区 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平戸港に加えて、川内港、田平港を指定 川内港海岸環境整備完了（千里ヶ浜） 平戸港浮き桟橋・ボードウォーク（～H24年度）平戸港交流広場、バスセンター建替整備（～H26年度） 田平港シーサイドエリア活性化施設（平戸瀬戸市場）整備完了
	快適環境の基礎づくり	
	交通基盤及び居住環境の整備	長期優良住宅の普及促進 平戸市公営住宅等長寿命化計画策定（H22.9） 「平戸市防災ホームページ」公開、防災マップ策定中 公共施設のバリアフリー化、通学路の整備
	都市施設及び生活基盤の整備	街なみ環境整備事業 事業中 電線類地中化

	耐震改修促進計画（H20.3） 公園、ポケットパーク整備
山林農地海岸等の自然環境保全	地すべり対策
歴史文化のまちづくり	
歴史的保全要素の継承と施設整備	オランダ商館復元（H23.9） 鄭成功居宅跡整備 事業中 市内周遊定期観光バスの運行
わかりやすい市街地形態の形成	平戸港湾周辺整備 オランダ商館復元（H23.9）
景観構成要素の保全と活用	街なみ環境整備事業 事業中 景観計画策定（H20.3）

都市計画区域全体における課題

（１）現況課題の整理

人口・産業

高齢化が進行し、H22年国勢調査による市全体の高齢化率は33.3%である。

雇用の確保による人口の定住化、産業の振興が必要であり、産業振興の受け皿として土地利用の誘導を検討する。

魅力ある農林漁業の振興や、にぎわいのある商工業の振興が必要である。

土地利用

平戸市街地の一部を除いて市街地の拡大は見られないが、中心市街地や地域の中心部が人口減少などの影響により空洞化（空き地、空き家が発生）しており、既存の施設を有効活用するなどにより、生活利便施設を集約しコンパクトシティを目指す必要がある。

農地や自然環境を保全し、耕作放棄地などの未利用地の利活用を促進するなど、有効的な土地利用を図る必要がある。

交通

西九州道との接続など、広域ネットワーク網の整備と地域間道路のネットワークの整備を行い、災害時等の代替路線を確保する必要がある。

高齢社会を見据え、中心拠点と地域拠点を結ぶ公共交通によるネットワークを確保し、鉄道やバス、フェリーの利便性を高め、利用を促進する。

- ・MR レンタサイクル：たびら平戸口駅
- ・パーク＆ライド：他市町のMR 沿線で実施中

・公共交通のバリアフリー対策

都市施設（河川・上下水道）

生活排水対策としての浄化槽設置を促進し、河川や海岸の自然環境を保全する必要がある。

住環境整備

高齢者や障害者などが自立的に活動できるバリアフリーの空間整備や、自動車に頼らず歩いて生活できる環境を整備する必要がある。

また、セーフティネットとしての高齢者向け賃貸住宅などを中心部に整備する必要がある。

老朽建物の耐震化を促進し、密集市街地の改善、狭あい道路の整備が必要である。

自然環境（公園・緑地等）

市街地や集落における空き地を公園として整備するなど、地域住民の防災や緑による潤いを与える空間を創出する必要がある。

自然公園や都市公園、史跡などの利用を促進し、観光の拠点や、住民のレクリエーション拠点としてやの有効活用を図る。

景観

重点景観計画区域である、“平戸旧城下町地区”の景観保全・形成を推進し、観光地としての魅力を向上し、地域の活性化を図る。

景観重要建造物、景観重要樹木の指定を行い、地域や市民にとって重要な景観資源を保全する。

防災

災害危険箇所、避難行動についての普及・啓発を図る。また、自主防災組織の組織率を向上し、要援護者の安全確保など地域ぐるみの防災訓練などの実施により、災害時の対応力を高める必要がある。

また、緊急輸送道路や避難路の整備を行う。

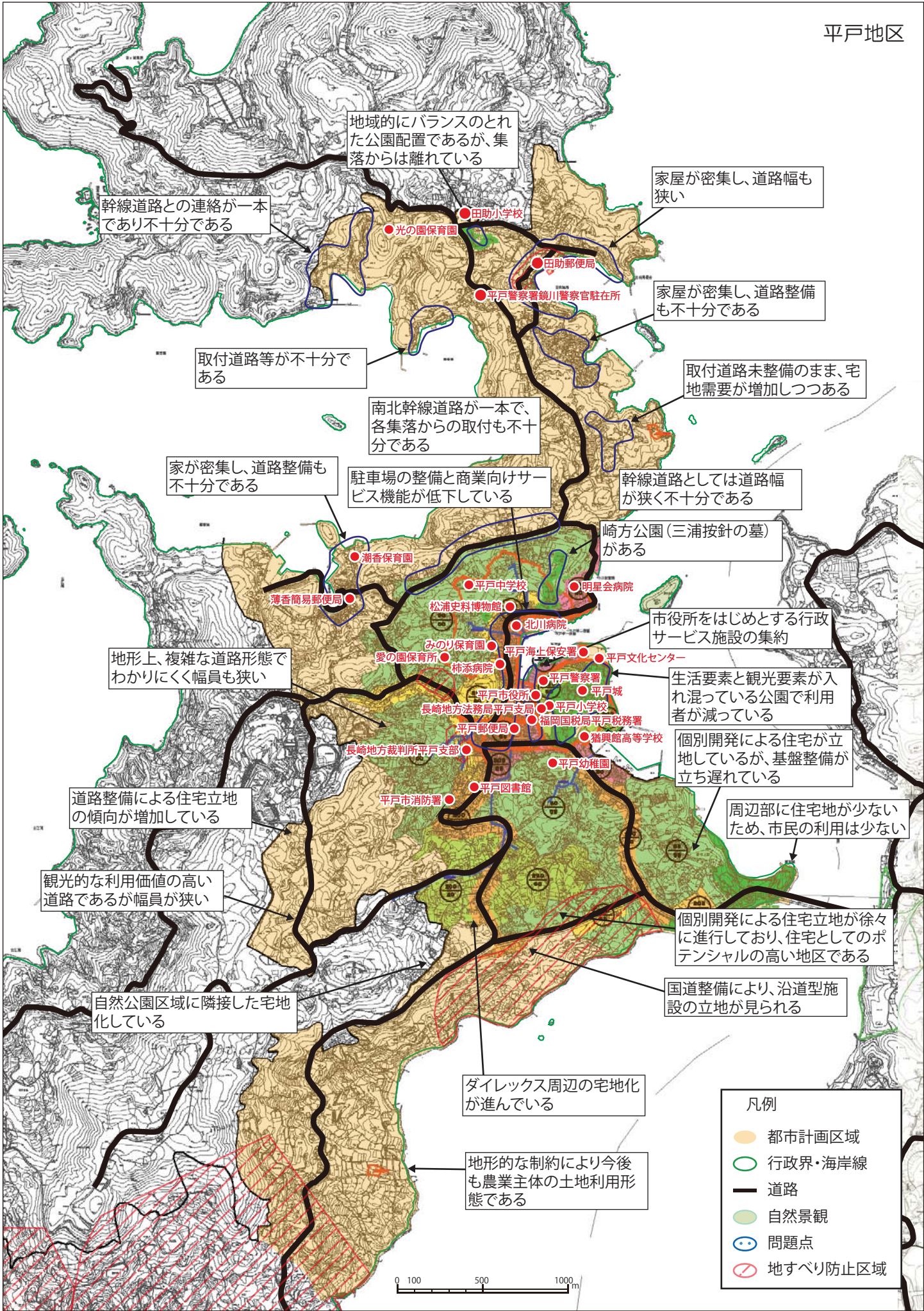
人口減少や高齢化の影響による廃屋が増加する恐れがあり、景観や防犯、防災上の観点から、廃屋についての対策を検討する必要がある。

その他（観光等）

地域と観光業や観光施設の整備と連携を図りながら、地域活性化を図る必要がある。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指した取り組みと連携し、田平教会の周辺施設整備を検討する。

平戸地区



地域的にバランスのとれた公園配置であるが、集落からは離れている

幹線道路との連絡が一本であり不十分である

家屋が密集し、道路幅も狭い

家屋が密集し、道路整備も不十分である

取付道路等が不十分である

取付道路未整備のまま、宅地需要が増加しつつある

南北幹線道路が一本で、各集落からの取付も不十分である

家が密集し、道路整備も不十分である

駐車場の整備と商業向けサービス機能が低下している

幹線道路としては道路幅が狭く不十分である

崎方公園(三浦按針の墓)がある

市役所をはじめとする行政サービス施設の集約

地形上、複雑な道路形態でわかりにくく幅員も狭い

生活要素と観光要素が入れ混っている公園で利用者が減っている

個別開発による住宅が立地しているが、基盤整備が立ち遅れている

道路整備による住宅立地の傾向が増加している

周辺部に住宅地が少ないため、市民の利用は少ない

観光的な利用価値の高い道路であるが幅員が狭い

個別開発による住宅立地が徐々に進行しており、住宅としてのポテンシャルの高い地区である

自然公園区域に隣接した宅地化している

国道整備により、沿道型施設の立地が見られる

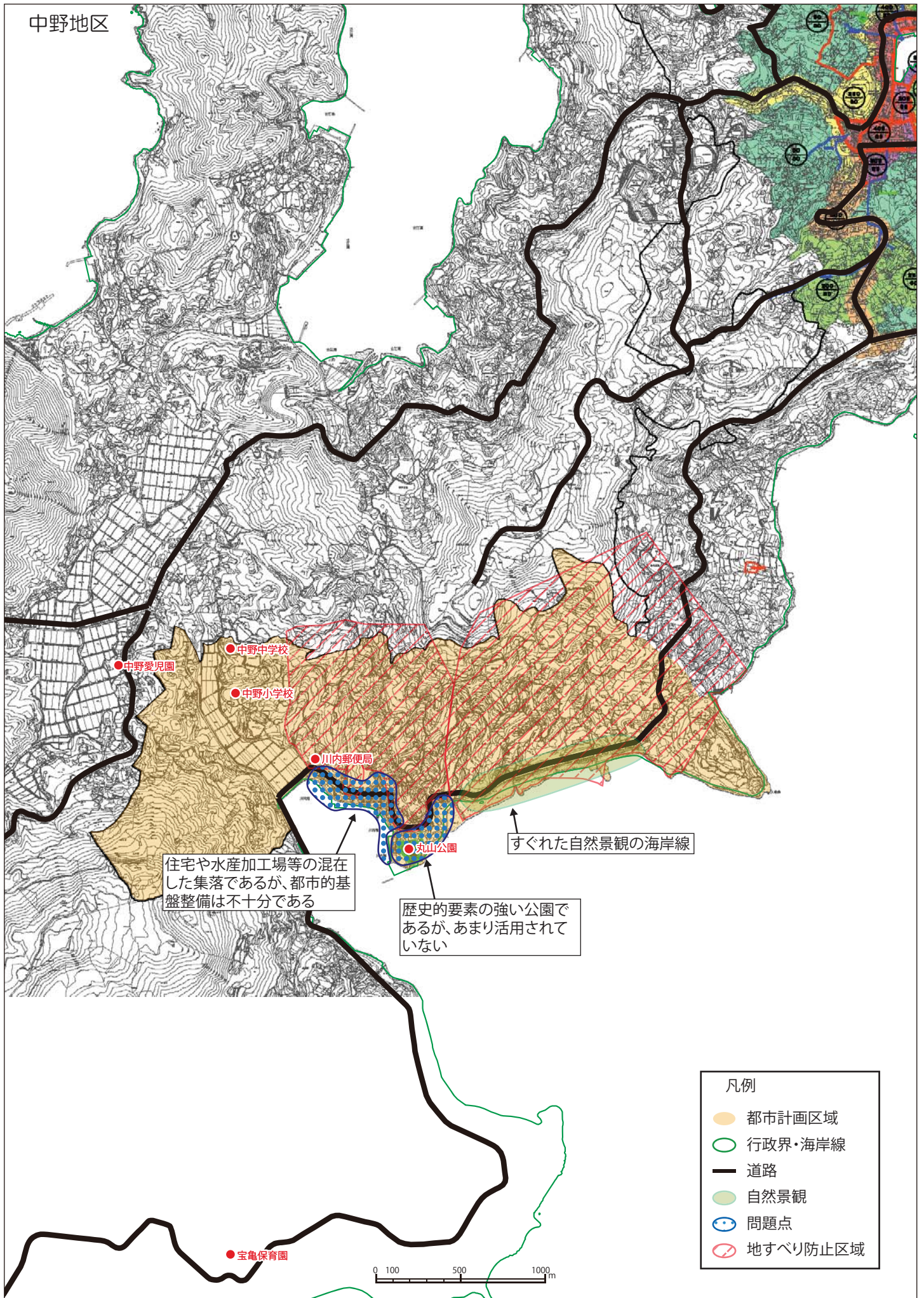
ダイレックス周辺の宅地化が進んでいる

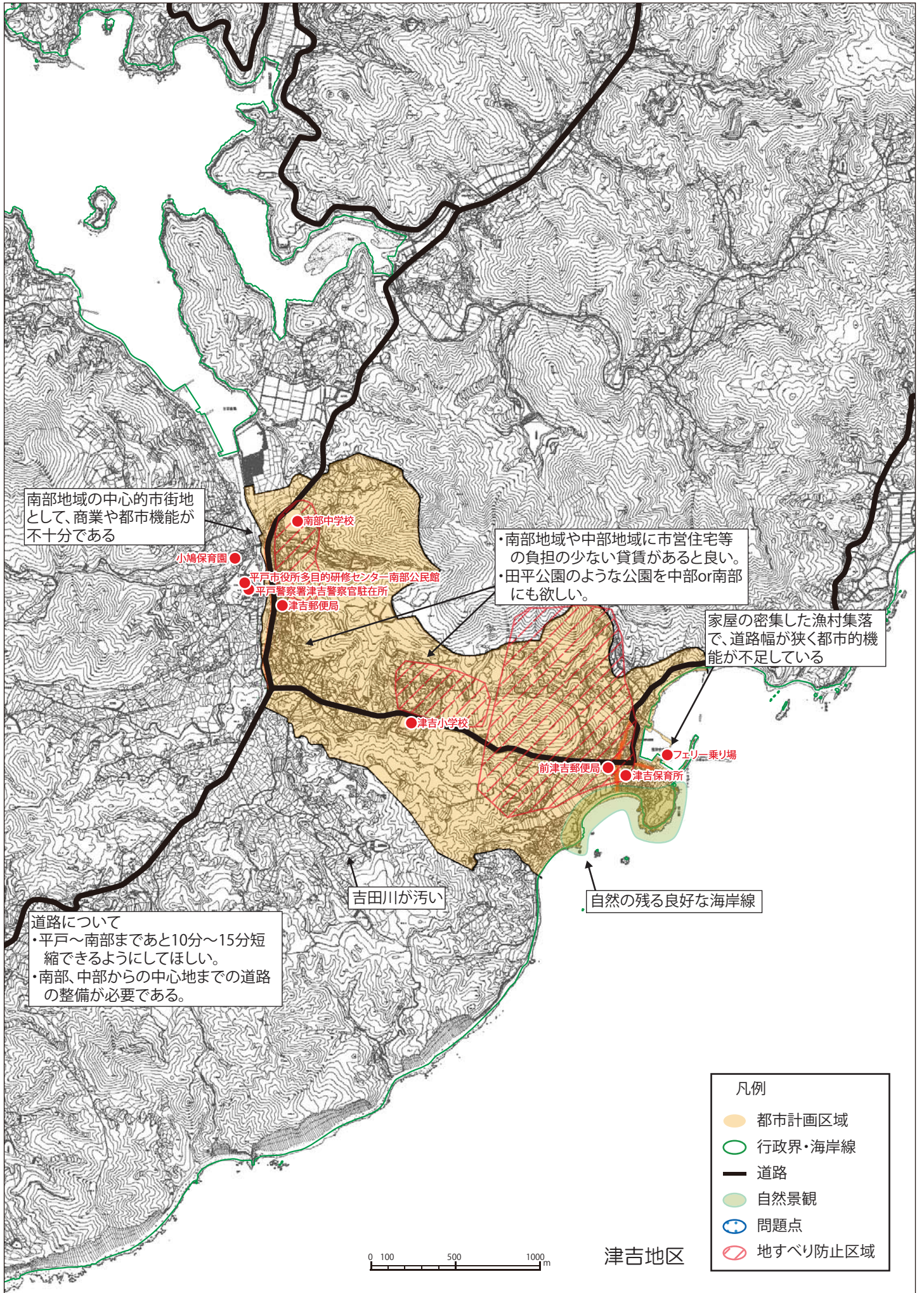
地形的な制約により今後も農業主体の土地利用形態である

- 凡例
- 都市計画区域
 - 行政界・海岸線
 - 道路
 - 自然景観
 - 問題点
 - 地すべり防止区域



中野地区





南部地域の中心的市街地として、商業や都市機能が不十分である

● 小鳩保育園

● 平戸市役所多目的研修センター 南部公民館
● 平戸警察署津吉警察官駐在所
● 津吉郵便局

● 南部中学校

・南部地域や中部地域に市営住宅等の負担の少ない賃貸があると良い。
・田平公園のような公園を中部or南部にも欲しい。

家屋の密集した漁村集落で、道路幅が狭く都市的機能が不足している

● 津吉小学校

● 前津吉郵便局

● 津吉保育所

● フェリー乗り場

吉田川が汚い

自然の残る良好な海岸線

道路について

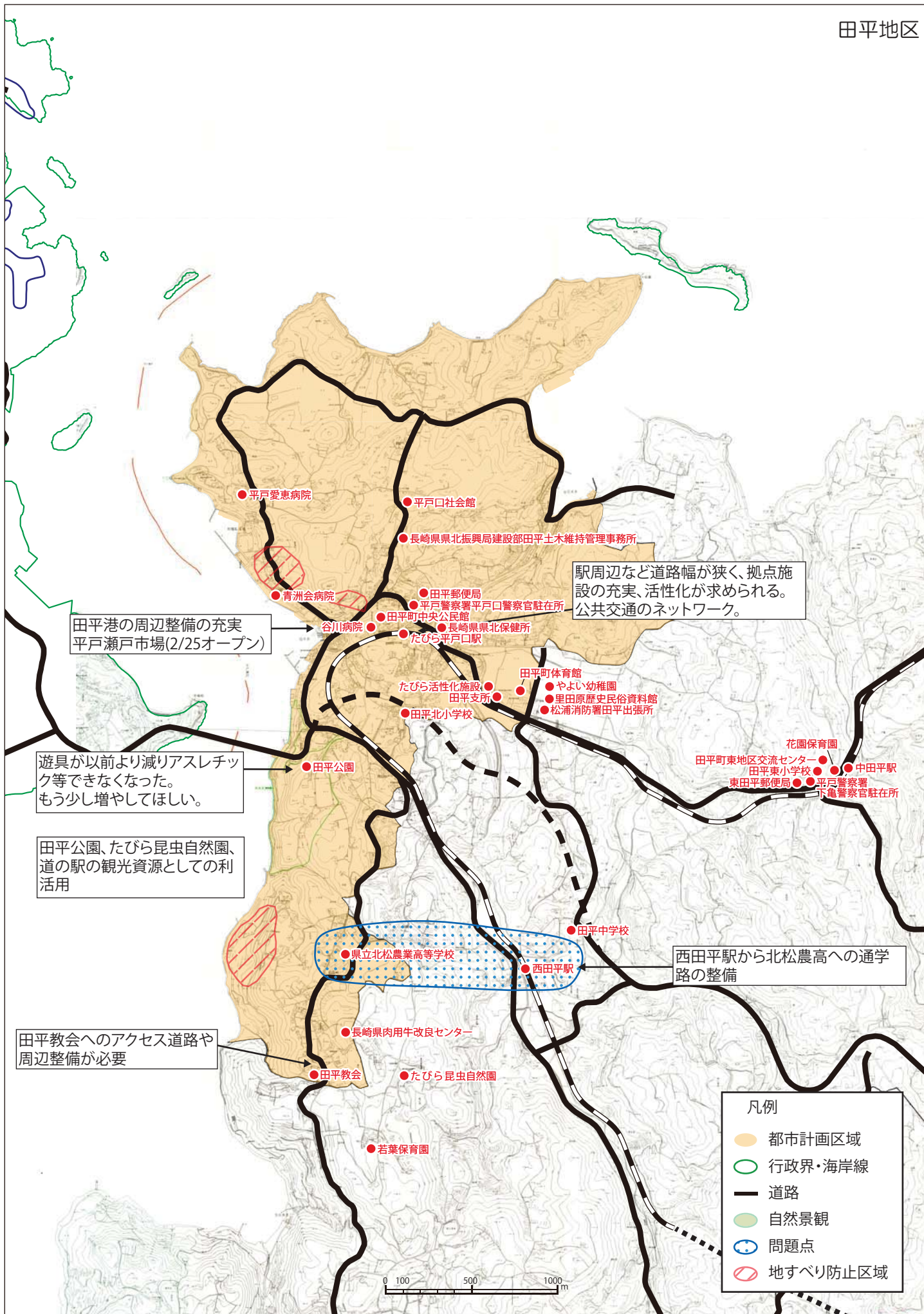
- ・平戸～南部まであと10分～15分短縮できるようにしてほしい。
- ・南部、中部からの中心地までの道路の整備が必要である。

凡例

- 都市計画区域
- 行政界・海岸線
- 道路
- 自然景観
- 問題点
- ▨ 地すべり防止区域



津吉地区



田平港の周辺整備の充実
平戸瀬戸市場(2/25オープン)

遊具が以前より減りアスレチック等できなくなった。
もう少し増やしてほしい。

田平公園、たびら昆虫自然園、道の駅の観光資源としての利活用

田平教会へのアクセス道路や周辺整備が必要

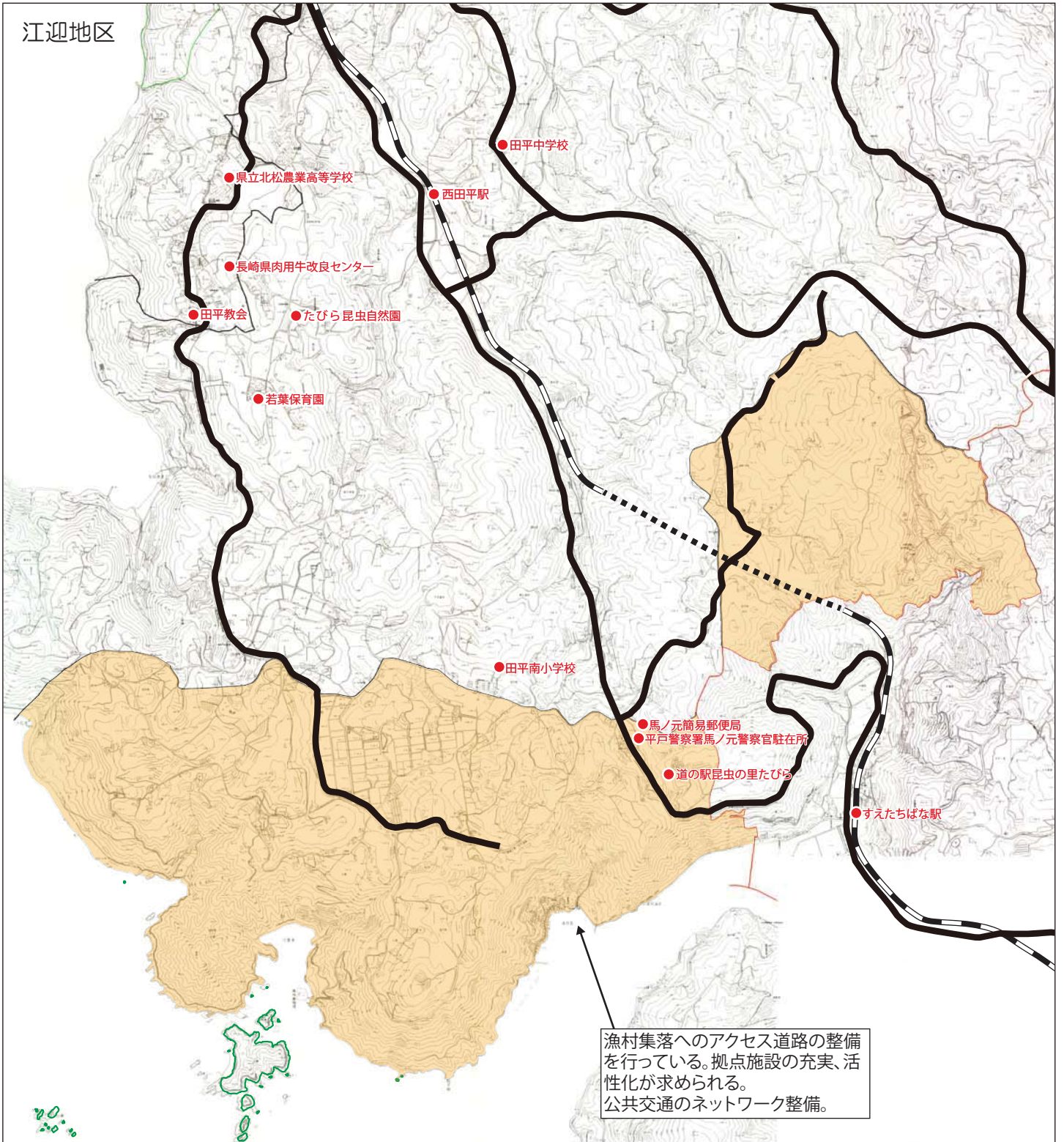
駅周辺など道路幅が狭く、拠点施設の充実、活性化が求められる。
公共交通のネットワーク。

西田平駅から北松農高への通学路の整備

- 凡例
- 都市計画区域
 - 行政界・海岸線
 - 道路
 - 自然景観
 - 問題点
 - 地すべり防止区域



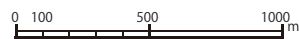
江迎地区



漁村集落へのアクセス道路の整備
を行っている。拠点施設の充実、活
性化が求められる。
公共交通のネットワーク整備。

凡例

- 都市計画区域
- 行政界・海岸線
- 道路
- 自然景観
- 問題点
- 地すべり防止区域



平戸市都市計画区域全体における課題

	旧平戸市都市計画マスタープラン（平成 11 年 7 月）	総合計画で挙げられた課題（平成 20 年 3 月）	都市マスアンケートからの課題（平成 23 年 10 月）	その他の課題
人口・産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 基幹産業（農業・水産業・観光）の低迷を受けた人口減少 ● 南部地域の著しい人口減少などによる地域間格差の拡大 ● 平戸地域以外の高齢化の進行 ● 基幹産業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>人口減少が慢性的に続き、特に青壮年層の人口減少等に伴う少子化が進行、高齢化も著しい</u> ● <u>農林水産業の振興と資源を活用した観光や商工業の振興</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工業について「雇用機会増大のための企業誘致の推進や工業団地の活性化を図る」べきと考えている人が半数おり、<u>雇用の確保による定住化、産業の振興が必要</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市全体の高齢化率は33.3%（H22年国勢調査）となり市全体で<u>高齢化が進行</u>しており、特に平戸中・南部、大島の高齢化率が高い。 ● <u>新たな産業の創出</u> ● <u>体験型・滞在型観光の推進</u>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業地域や自然地域を保全する施策や市街化に対する規制誘導と良好な住宅地の供給 ● （平戸市街地以外の集落については）集落部の生活環境の整備 ● 自然公園区域等のすぐれた環境の保全と観光への活用 ● 都市計画区域外へのミニ開発現象や用途地域地区周辺への宅地化に対する計画的な住宅地の供給 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然との共生と環境への負荷を配慮しながら、緑を活かした快適なゆとりある地域空間の創造 ● 本市の環境と景観の存立基盤である森林や海岸線の保全 ● 地域の持つ個性や特性を十分に活かした土地利用の推進 ● 歴史資源や街並み、景観、集落の保存 ● 自然災害の防止や自然環境との共生を図りながら、市民生活の安全を守り、快適でゆとりある居住空間の確保 ● 用途地域の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「建物の不燃化や耐震性の向上など、まちの安全・安心のため最低限の制限を行うべきである」が35%、また「豊かな自然環境や良好な居住環境を守るため、土地利用や建築について積極的に規制すべきである」が21%と続いていることから、<u>ある程度の規制をかけてでも、安全・安心を確保すること、また自然環境や居住環境を守っていくことが必要</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地の縁辺部や幹線道路沿線での開発が進んでいたが、現在は一部の市街地を除いて開発はみられない。一方、<u>平戸市街地をはじめ各地域の中心部の空洞化（空き地、空き家）が進んでいる</u>。 ● それぞれの地域にあった土地利用や居住環境を整備する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 市街地：<u>不燃化、耐震化、活性化</u> ○ 農村集落：<u>生活利便性の確保</u> ○ 農地・自然地：<u>棚田など農地の保全</u> ● <u>耕作放棄地の利活用</u>
交通体系（道路、港湾、バス、鉄道）	<ul style="list-style-type: none"> ● 平戸地区と中部地域や南部地域の交通網の整備【<u>交通</u>】 ● 平戸大橋からつながる(国)383号と(主)平戸田平線の改良整備【<u>道路</u>】 ● これらを補完する県道及び市道を含め、地域間ネットワークの強化【<u>道路</u>】 ● 計画決定されている都市計画道路について、その整備の推進と周辺を含めた整備【<u>道路</u>】 ● 白浜地区埋立地の有効利用と観光拠点としての平戸港の早期整備の推進【<u>港湾</u>】 ● 川内港は、海岸環境整備事業によるレクリエーション機能を重視した計画がなされており、早期完成が望まれる【<u>港湾</u>】 ● 前津吉港については、南部地域における海上交通の拠点としての強化とそれに伴う施設整備や周辺環境整備【<u>港湾</u>】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実情に合わせた計画路線の見直し【<u>都市計画道路</u>】 ● 交通安全意識の徹底や交通安全施設の整備、路上駐車対策【<u>道路・交通安全</u>】 ● 「車両の大型化による路面損傷」、「複雑な海岸線に沿って走っている路線における激しいカーブや道路幅員が狭い箇所」、「地域間に通じる幹線の未整備路線」、「安全施設の未整備」などに対する計画的かつ効率的な整備の推進【<u>道路</u>】 ● 市内から北松広域農道へのアクセス道路の整備の推進による、北松浦地域や佐世保市など周辺都市とのアクセス改善【<u>広域道路</u>】 ● 西九州自動車道の整備やそれと本市をつなぐ道路整備の促進による、広域的な道路ネットワークの形成【<u>広域道路</u>】 ● 廃止路線バスの代替であるふれあいバスの、利用者減少による維持管理経費の増加に対して、市民ニーズや利用状況の的確な把握による全般的な運行経路、運行形態の見直しが必要【<u>公共交通</u>】 ● 離島の市民にとって日常生活において欠かせない唯一の重要な交通手段であるフェリーについては、航路維持と利便性の向上が求められている【<u>公共交通</u>】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通に対する不満が50%を超えている一方で、通勤通学の不満度と開きがあることから、買い物等の日常的な利用における公共交通の不満が高いことが推察される。 ● 道路については、市街地や集落内における狭隘道路の改善、また歩道の確保や段差の解消などのバリアフリーに関する改善意見が高く、幹線・広域道路に対してよりも、<u>生活道路に対する改善が求められている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>広域・地域間道路ネットワークの充実</u> ● 生活道路の整備 ● 低炭素社会、高齢社会に対応した<u>公共交通ネットワーク（バス、鉄道、フェリー）の構築</u> ● 自動車に依存しない、<u>歩いて暮らせる都市構造の構築</u>
都市施設（河川・上下水道）	<ul style="list-style-type: none"> ● 水の安定供給のための水資源の確保【<u>上水道</u>】 ● 河川や海岸の浄化と生活環境の向上を図るための、公共下水道や集落排水施設等の整備【<u>下水道</u>】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 衛生的で快適な生活環境を維持し、持続可能な資源循環型社会の形成に向けた取り組み【<u>ゴミ</u>】 ● 適正な生活排水対策のための浄化槽の設置促進【<u>下水道</u>】 ● 安全・安心で安定した水道水を供給するための、水資源の確保【<u>上水道</u>】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上水道に比べて、生活排水処理に対する不満が若干高い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源循環型の下水処理 ● 水源林の保全

	旧平戸市都市計画マスタープラン（平成11年7月）	総合計画で挙げられた課題（平成20年3月）	都市マスアンケートからの課題（平成23年10月）	その他の課題
市街地・住環境	<ul style="list-style-type: none"> ●建物の密集した農漁村集落について、生活道路の拡幅・改良及び排水施設等の整備による居住環境の改善 ●現市街地の居住環境の整備、老朽化の著しい市営住宅の建て替え検討【市街地居住環境】 ●公営住宅等の供給を含め、これからの住環境については、高齢化社会に対応したバリアフリーの考え方に基づいた施設整備や住宅の供給【公営・公共住宅】 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者や親子連れでも安心して利用できる商業空間を形成し、地域社会に密着した賑わいのある商店街の創出【商業】 ●公営、公共住宅における高齢者や障害者等に配慮したバリアフリー対策【公営・公共住宅】 ●低所得者に対する公平かつ確かな住宅供給【公共住宅】 ●家庭、学校、地域社会の連携による地域ぐるみの子育て環境の整備【教育】 ●校舎等学校施設における、損耗、機能低下等に対して、地域格差の無い教育、安全・安心な学校づくりのための施設の充実【学校施設】 	<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地においては、駐車場、商業施設、観光施設の順で整備の必要性が高いという結果になっており、今後の市の目指すべき方向性として、<u>観光客の受け皿としての中心市街地の適切な整備</u>が必要であると考えられる。 ●以下、歩行空間（まちあるき）、良好な景観（平戸らしさ）といったように、<u>観光に関連する項目が上位</u>を占めている。 ●これは、観光まちづくりについての回答でも、「自然・歴史・食などを楽しみながらまちあるきができる歩行空間づくり」が最も回答数が多かった点からも明らかである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平戸城下旧町地区の市街地整備 ●住民の生活環境と観光施設整備の融合 ●<u>高齢者が住みやすい生活環境の整備</u> ●子供を安心して育てられる地域づくり
自然環境（公園緑地）	<ul style="list-style-type: none"> ●市街地や集落地内の身近な公園（街区公園等）は整備されていないため、公園緑地に恵まれた都市としての実感を高めていく為の整備【公園緑地】 ●住宅地等の開発に伴う緑地の減少も見られ、景観を考慮した緑地の保全・確保【公園緑地】 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市生活型公害の問題に加え、地球規模での複雑な環境問題を未然に防止するため、公害の発生源に対する指導・監視・調査を強化するなど、良好な環境を維持するための環境対策の推進【環境保全】 ●市民が安らぎや潤いを感じられるような、花や緑、水など憩いの空間の整備充実【公園緑地】 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境に対する満足度は高い傾向が見られたが、都市施設としての公園に対しては、約50%が不満という結果から、<u>日常的なレクリエーション等や家族連れに対応できる大きな公園など、利用ニーズに細かく対応した都市公園の充実</u>が必要である。 ●平戸市の特長である海や森などの豊かな自然、また史跡などを活かした公園の整備についても必要性は高い。 ●農地や山林については、<u>基本的には現状を維持していく為の積極的な保全</u>が必要であるが、活性化のための開発の必要性を検討した上で、<u>バランスのとれたもの</u>とする必要がある。 ●<u>良好な景観を維持していくことが前提</u>となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>地域住民の誰もが身近に利用できる公園整備が重要</u>。 ●<u>耕作放棄地</u>、間伐等の人の手の入らない<u>放置森林</u>への対応。 ●水源林や水源涵養林としての山林保全
景観		<ul style="list-style-type: none"> ●景観資産に登録された建造物の老朽化に対する、保守及び保全【景観】 ●各地域において特徴ある景観の整備の推進【景観】 ●漁業や漁村の有する多面的機能の維持増進による、個性ある活力に満ちた漁村づくりの推進【景観】 	<ul style="list-style-type: none"> ●景観づくりにおいては、「平戸固有の歴史文化を活かした景観づくり」が最も多く、平戸地区における城下町の風情やオランダ商館のオープンにみられる<u>中心市街地の歴史を活かした景観づくりに対する期待</u>の表れであると考えられる。 ●これに続いて、「賑わいのある商業地の景観づくり」、「市民と行政による共同の体制づくり」が挙げられており、<u>景観づくりの効果としての中心市街地活性化</u>を実現していく為に、<u>協働の推進体制を構築していくことが重要</u>である。 ●また、海岸や漁港、棚田と石垣といった<u>文化的景観</u>についても、<u>その保全と活用について、共同での取り組みを今後も推進</u>していくことが必要である。 ●景観形成に向けたルールについては、屋外広告物に関するルールの必要性が高い回答を得ており、特に幹線道路沿いや中心市街地における<u>屋外広告物については、今後の自主条例制定を視野に入れたきめ細やかな規制誘導を検討</u>する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史・文化資源の景観に調和しない建築物や工作物が一部で見られる。 ●重点景観計画区域である“平戸旧城下町地区”の景観の保全・形成の推進 ●景観まちづくりの協働の体制作りが必要

	旧平戸市都市計画マスタープラン（平成 11 年 7 月）	総合計画で挙げられた課題（平成 20 年 3 月）	都市マスアンケートからの課題（平成 23 年 10 月）	その他の課題
防災		<ul style="list-style-type: none"> ●市民の防災意識の高揚や、急傾斜地や河川等の危険箇所の整備を進めてきたこれまでの流れを受け、「平戸市地域防災計画」に基づく総合的な防災対策の推進【防災】 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災面では、密集市街地の狭隘道路の改善が最も高く、利便性の側面と同時に、<u>安全・安心のまちづくりという観点からも、改善を検討していく必要がある。</u> ●避難場所や避難経路の確保、防災マップの配布等による市民意識の啓発などが続いて高い回答を集めており、こうした<u>防災に関する取り組みをハードとソフトの面から統括する総合的な防災計画の策定を検討していく必要がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ●密集市街地の耐震化、不燃化 ●自主防災組織率の向上、市民の防災意識の向上 ●緊急輸送道路や安全な避難路の確保 ●防災・防犯対策
その他（防犯、観光等）	<ul style="list-style-type: none"> ●都市整備の観点からの地域振興策の検討等、地域格差の是正【高齢化・地域格差】 ●公民館・学校・公園等の地域コミュニティ施設の整備やその複合化の検討【地域コミュニティ施設】 ●教育・医療保健福祉・行政サービス等についての、効率的な施設整備【公共施設】 ●観光スタイルの変化や多様化に十分対応できる施設整備（町並み、景観、道路等）【観光】 	<ul style="list-style-type: none"> ●犯罪や市民生活の身近にある問題に対する被害を防ぐために、啓発活動、相談窓口業務の充実や地域コミュニティの強化【防犯】 ●高度医療を備えた高次医療機関等との連携強化と一体的な医療の充実【医療】 ●離島地域における救急医療体制の充実【医療】 ●観光客が、再び訪れたいくなるような魅力ある観光地づくり【観光】 ●キリシタン文化の象徴である教会群、和蘭商館跡や鄭成功居宅跡などヨーロッパや中国などとの深い関わりがある史跡の整備【観光】 		<ul style="list-style-type: none"> ●地域の住民同士が支えあい、また観光客を地域に取り込むなど、観光をベースとした地域コミュニティの維持の検討。

地域別の課題（●：現都市マス、◇：都市マスアンケート、◆現況）

	平戸地域	中野地域	津吉地域	田平地域	その他地域
土地利用	<p>●景観や防災に影響を与える市街地外周部への市街化に対する対応の必要性。</p> <p>●地すべり防止区域内の農地等の保全。</p> <p>◇安全・安心のための最低限の制限を行うべきと言う意見が最も多いが、他地区に比べ「豊かな自然環境や良好な居住環境を守るため、土地利用や建築について積極的に規制すべきである」という意見が多い。</p> <p>◆市街地の空き地の有効活用</p>	<p>◇全体的な規制の重要性は認めつつも、安全・安心のための最低限の制限にとどめるべきという意見が多い。</p>	<p>●南部地域の中心拠点としての都市機能整備。</p> <p>●都市計画区域外（国道383号西側）の宅地化についての計画的な誘導。</p> <p>●前津吉の地すべり防止区域内の農地等の保全。</p> <p>◇全体的な規制の重要性は認めつつも、安全・安心のための最低限の制限にとどめるべきという意見が多い。</p>	<p>◇全体的な規制の重要性は認めつつも、安全・安心のための最低限の制限にとどめるべきという意見が多い。</p>	<p>◇全体的な規制の重要性は認めつつも、安全・安心のための最低限の制限にとどめるべきという意見が多い。</p>
交通体系（道路、港湾、バス、鉄道）	<p>●地域間ネットワーク強化に対する道路整備（国道383号、県道19、153、200号等）</p> <p>●下中野町内県道19号の整備による沿道施設の計画的な誘導策の必要性</p> <p>◇道路整備における最も重要な項目は「歩道の確保や段差の解消などバリアフリーの道路整備」である。</p> <p>◇駐車場の整備が最も大きな課題である。</p> <p>◆平戸桟橋ターミナルを中心とした、バス、フェリー、タクシーなどの公共交通の拠点整備が必要。</p> <p>◆観光客のための駐車場の整備が必要。</p>	<p>●地域間ネットワーク強化に対する道路整備（国道383号と県道19号等）</p> <p>◇道路の整備状況に対する不満度が5地域の中では一番高い。</p> <p>◇道路整備における最も重要な項目は「市内の各地域を結ぶ幹線道路の整備」である。</p>	<p>●地域間ネットワーク強化に対する道路整備（国道383号と県道60号）</p> <p>●南部地域における海上連絡拠点と集落環境整備。</p> <p>◇通勤、通学に対する不満度が高く、連動して公共交通のポイントも低い。</p> <p>◇安全性に関する不満が高くなっている。</p> <p>◇道路整備における最も重要な項目は「市内の各地域を結ぶ幹線道路の整備」と「市街地・集落内における狭い道路の改善」である。</p>	<p>◇道路に関しては、安全性に対する不満が高くなっている。</p> <p>◇道路整備における最も重要な項目は「市街地・集落内における狭い道路の改善」である。</p> <p>◆西九州自動車道整備促進と接続道路の整備</p> <p>◆松浦鉄道の駅周辺整備と利用促進</p>	<p>◇通勤、通学に対する不満度が高く、連動して公共交通のポイントも低い。</p> <p>◇道路整備における最も重要な項目は「市街地・集落内における狭い道路の改善」である。</p>
都市施設（河川・上下水道）	<p>◇下水道については概ね3割程度が不満と感じている。</p>	<p>◇下水道については概ね3割程度が不満と感じている。</p>	<p>◇上水道に対する不満が高い。</p> <p>◇下水道については概ね3割程度が不満と感じている。</p>	<p>◇下水道については概ね3割程度が不満と感じている。</p>	<p>◇下水道については概ね3割程度が不満と感じている。</p>
市街地・住環境	<p>●中心市街地の求心力低下に対する都市基盤整備の必要性</p> <p>●薄香、田助、大久保の漁村集落における集落環境整備の必要性。</p> <p>◇市の商業の中心拠点として、平戸城下旧町地区の商店街の活性化を図ると言う意見が他地区に比べると突出している。</p> <p>◆商店街の歩行者の安全性を図る必要がある</p> <p>◆空き家の有効活用</p>	<p>●個性ある集落環境の保全と生活環境整備の必要性</p> <p>◇商業環境については、自分の住む地域での買い物の利便性の確保のための商店の活性化が課題である。また幹線道路沿道への商業施設の誘致による活性化への期待も高い。</p>	<p>◇商業環境については、自分の住む地域での買い物の利便性の確保のための商店の活性化が課題である。</p>	<p>◇商業環境については、自分の住む地域での買い物の利便性の確保のための商店の活性化が課題である。また幹線道路沿道への商業施設の誘致による活性化への期待も高い。</p>	<p>◇商業環境については、自分の住む地域での買い物の利便性の確保のための商店の活性化が課題である。</p>

	平戸地域	中野地域	津吉地域	田平地域	その他地域
自然環境（公園緑地）	<p>●自然公園区域とその周辺を中心とする恒久的環境保全の必要性。</p> <p>◇公園などの子どもの遊び場について<u>不満が過半数</u>を超えている。</p> <p>◇公園・緑地の整備について重要な項目は「身近に利用できる、子どものための遊具が整備された小さな公園、広場の整備」である。</p>	<p>●自然公園区域とその周辺を中心とする恒久的環境保全の必要性。</p> <p>◇公園などの子どもの遊び場について<u>不満が過半数</u>を超えている。</p> <p>◇公園・緑地の整備について重要な項目は「身近に利用できる、子どものための遊具が整備された小さな公園、広場の整備」である。</p>	<p>◇公園などの子どもの遊び場について<u>不満が過半数</u>を超えている。</p> <p>◇公園・緑地の整備について重要な項目は「身近に利用できる、子どものための遊具が整備された小さな公園、広場の整備」である。</p>	<p>◇公園などの子どもの遊び場について<u>不満が約4割</u>となっている。</p> <p>◇公園・緑地の整備について重要な項目は「海岸や河川、森の中の豊かな自然、史跡などの地域特性を活かした公園の整備」である。</p> <p>◆自然公園区域とその周辺を中心とする恒久的環境保全の必要性。</p>	<p>◇公園などの子どもの遊び場について<u>不満が約4割</u>となっている。</p> <p>◇公園・緑地の整備について重要な項目は「海岸や河川、森の中の豊かな自然、史跡などの地域特性を活かした公園の整備」である。</p>
景観	◇いずれの地域も「平戸固有の歴史文化を活かした景観づくり」を最も重要と考えている。	◇いずれの地域も「平戸固有の歴史文化を活かした景観づくり」を最も重要と考えている。	◇いずれの地域も「平戸固有の歴史文化を活かした景観づくり」を最も重要と考えている。	◇いずれの地域も「平戸固有の歴史文化を活かした景観づくり」を最も重要と考えている。	◇いずれの地域も「平戸固有の歴史文化を活かした景観づくり」を最も重要と考えている。次に「海岸や漁港などの海沿いの景観づくり」を重要と考えている。
防災			◇災害対策や避難情報の提供において、最も <u>不満が少ない</u> 。	◇災害対策や避難情報の提供において、最も <u>不満が高い</u> 。 ◇消防施設、消防体制について、 <u>他地区に比べ不満が高い</u> 。	
その他（高齢化、防犯）		●沿岸部の歴史性や自然環境を活かした観光的整備の必要性。			